平成１９年度

生徒用

「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）

中学校　第３学年　国語

○問題用紙は４枚，解答用紙は２枚あります。

学校名	

年　　組　　号	
名　前	

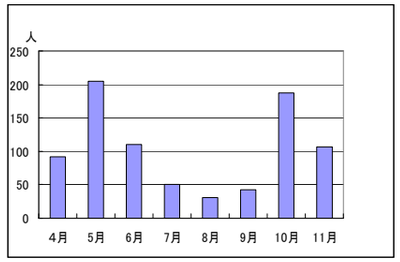
熊本県教育委員会

1

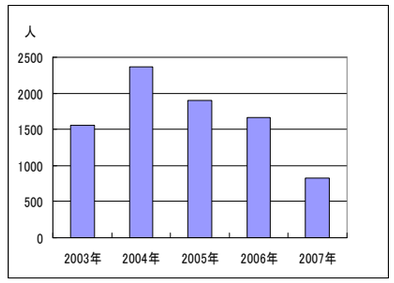
今聞き取ったことをもとに、次の問いに答えなさい。

(1) 生徒会長の長井さんが用意したグラフとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。また、選んだグラフは、長井さんの提案のどんな点を最もよく表しているか、書きなさい。

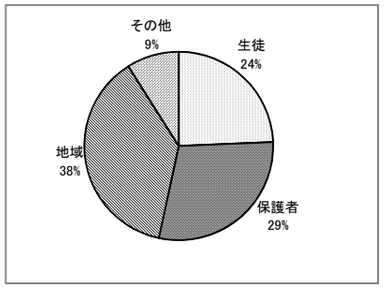
ア　月別利用者数



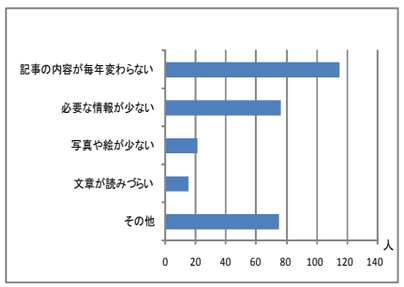
イ　年ごとの利用者数



ウ　利用者の割合



エ　調査項目別人数



(2) この生徒議会では、三人の生徒から意見が発表されました。参加者の一人が、左上のようなメモを取りました。このメモの取り方の工夫として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

○　山田さん　・新しい情報に作り直した月は利用者が多い。
　　・こまめに記事を新しくしてはどうか。
○　佐藤さん　・学校行事中心の記事が多い。
　　・個人の活躍も記事にしてはどうか。
○　鈴木さん　・利用者の意見を知る必要がある。
　　・保護者を対象にアンケート調査を行う。

ア　発表者が述べた課題と、それに対して自分が考えた対策のメモを取っている。
イ　話題の中心点を、箇条書きでまとめ、感想を入れてメモを取っている。
ウ　発表者が述べた課題と意見とを分けて、簡潔にまとめてメモを取っている。
エ　話し合いで出されたホームページの課題点を中心にメモを取っている。

(3) 生徒議会の中で、あなたはこのあと発言を求められました。ホームページの利用者を増やすためにどうするべきだと発言しますか。三人の意見を参考に具体的な例をあげて、発言するように書きなさい。

2

次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の漢字の読みがなを書きなさい。また、――線のひらがなを漢字に直しなさい。

① 詳しい地図を見る。　② 友達と頻繁に連絡をとる。
③ スポーツで体を鍛える。　④ 添付された説明書を読む。
⑤ 非常時に備えて水をたくわえる。　⑥ 片側通行になり、車の流れがとどこおる
⑦ 一人一鉢の菊のさいばいを続ける。　⑧ 二回戦で優勝チームにせきはいした。

(2) 木村さんは、正門のところで来校された方に話しかけられました。次の二人の会話の――線部を尊敬語や謙譲語を使った言葉に書き直しなさい。

来校者　「こんにちは。私は、南中学校の高井と言います。校長室はどちらですか。」
木　村　「こんにちは。校長室は、二階ですが、まず、正面玄関から①入ってください。」
来校者　「では、正面玄関は、どちらですか。」
木　村　「正面玄関までは、私が②案内しましょう。」

(3) 次の空欄に当てはまる漢字を一字ずつ入れて、四字熟語を完成させなさい。

私たちの社会にはたくさんの情報があふれている。そのため、私たちは何が自分にとって必要な情報かを「取□選□」しなければならない。

(4) あとの文のア～エの文中にある「れる・られる」のうち、(例)の文中にある「れる」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

(例)　東京に就職している兄の帰りが待たれる。

ア　先生は、説得力があるうえに、優しく分かりやすい話をされる。
イ　アルバムを見ると、小学校時代の楽しかったことが思い出される。
ウ　冬休みが終わると、教室でたくさんの友達の元気な顔が見られる。
エ　この本の結末の面白さが、多くの中学生に愛読される理由だ。

3

坂本さんの学校の図書委員会では、「読書の大切さ」について書かれた本を探し、それを使って「図書委員会だより」を書くことにしました。次の文章は、江戸時代に貝原益軒が書いた「和俗童子訓」という本の中の文章です。この本には、日々の暮らし方や子どもの育て方についての思いが述べられており、江戸時代の寺子屋の教育に大きな影響を与えたとされています。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

＊凡そ書を読むには、＊①いそがはしく、早く読むべからず。＊ゆるやかに之を読みて、字々句々、＊分明なるべし。一字をも誤るべからず。必ず＊心到り、眼到り、口到るべし。此三到の内、②心到を先とす。心、此に在らざれば、見れども見へず。心到らずしては、＊みだりに口に読めども覚えず。又、俄に、＊しひて暗に読み覚えても、＊久しきを歴れば忘る。唯、心をとめて、＊多く＊遍数を誦すれば、自然と覚えて、久しく忘れず。遍数を計へて、熟読すべし。一書熟して後、又、一書を読むべし。＊聖経賢伝の益ある書の外、＊雑書を見るべからず。心を正しくし、行儀を慎み、みだりに言はず、笑はず、みだりに外に出入せず、みだりに動作せず、＊③志を学に専一にすべし。常に＊暇をおしみて、用もなきに、いたづらに隙を費やすべからず。

【語注】
○凡そ・・・そもそも
○いそがはしく・・・忙しそうに
○～べからず・・・～してはいけない
○分明なるべし・・・はっきりさせないといけない
○心到り、眼到り、口到るべし・・心と目と口を使って読むべきだ
○みだりに口に読めども・・・むやみに口で読んでも
○しひて・・・無理に
○久しきを歴れば・・・時がたてば
○遍数・・・回数
○誦すれば・・・音読すれば
○聖経賢伝の益ある書・・・聖人の書や賢者の伝などの有益な本
○雑書・・・物語など、読者が楽しむために読む本
○志を学に専一にすべし・・・志を持って学問に専念すべきだ
○暇をおしみて・・・時間を大切にして

(1) ――線①「いそがはしく、早く読むべからず」とありますが、これはどのように読むことですか。現代語で書きなさい。

(2) ――線②「心到を先とす」とありますが、その理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア　心が伴わなければ、内容を読み取ることができないし、口に出して読んだとしても心に残らないから。
イ　心が伴わなければ、内容がきちんと暗記できずに、本を何回も繰り返し読まなければならないから。
ウ　心が伴わなければ、自分の体験に照らし合わせることができず、価値のある本か判断できないから。
エ　心が伴わなければ、声を出して読む音読をしても、目で読む黙読ほどには、内容が分からないから。

(3) ――線③「志を学に専一にすべし」とありますが、志を持って学問に専念できる本はこの文章中でなんと表現されていますか。文章中の言葉を書き抜きなさい。

(4) 左下に示しているのは「図書委員会だより」の一部です。あなたは、A に「和俗童子訓」から引用したい文を入れ、B にその文に適した呼びかけの文章を書くことにしました。引用したい文を［　　］のア～エから一つ選び、A に記号で書きなさい。また、B には、呼びかけの文章を「読書をするときには、」に続けて二十字以上三十字以内で書きなさい。

ア　ゆるやかに之を読みて、字々句々、分明なるべし
イ　唯、心をとめて、多く遍数を誦すれば、自然と覚えて、久しく忘れず。
ウ　遍数を計へて、熟読すべし。
エ　一書熟して後、又、一書を読むべし。

A

奈良女子大学附属図書館　蔵

貝原益軒「和俗童子訓」より

B

読書をするときには、

4

木下さんは、総合的な学習の時間で「地球環境」についての学習を行っていたところ、次のような本に出会いました。これは、今から九年前（一九九八年）に書かれた本です。よく読んであとの問いに答えなさい。

（石　弘之「地球環境報告Ⅱ」による。）

(1) 木下さんは、この文章とインターネットで見つけた左の【資料】から考えたことを下のようにまとめました。A・Bに入る最も適当な言葉を文章中から書き抜きなさい。

【資料】

２００６年版のＩＵＣＮ「レッド・リスト」に掲載された絶滅のおそれの高い種の数

（単位は種）

分類	緊急絶滅 危惧種	絶滅 危惧種	危急種	合計
哺乳類	162	348	583	1，093
鳥類	181	351	674	1，206
爬虫類（はちゅう）	73	101	167	341
両生類	442	738	631	1，811
魚類	253	238	682	1，173
昆虫類	68	129	426	623
軟体動物	265	222	488	975
その他の無脊椎（せきつい）動物				503
合計				7，725

【木下さんのまとめ】

絶滅の危機にある動物の種の数（単位は種）

1996 年版

哺乳類	鳥類	その他	合計
1，096	1，047	3，002	5，145

2006 年版

哺乳類	鳥類	その他	合計
1，093	1，206	5，426	7，725

・哺乳類は減っているが、全体的にはその数が増えている。

インターネットで調べたデータと文章中のデータを比較すると、筆者が述べている［A］と［B］による絶滅の危機は続いているということが考えられる。

(2) ――線①「地球温暖化」とありますが、地球温暖化が進行すると生物にどのような影響が出てくると述べていますか。文章中の具体的な例を使って説明しなさい。

(3) ――線②「絶滅していく種が将来、地球や人類にとってどんな意味があるのか、どんな恩恵を与えてくれるのか、まったく分からないだけに恐ろしい。」とありますが、筆者は人間と野生生物との関係は、これまでどのようであったと述べていますか。文章中の言葉を使って簡潔にまとめなさい。

(4) 近年、国家レベルでの二酸化炭素の削減や各自治体における環境保護や自然保護の活動が活発になってきています。あなたは、右の文章とインターネットから抜き出した【資料】から環境保全のために私たちができることは、どのようなことだと考えますか。具体的に書きなさい。

5

新聞の「コラム」とは、世の中で起こっている様々な出来事や季節の話題、地域の行事など、多様なことがらを題材にしながら、筆者の考えを述べた文章です。次の文章は、平成十八年九月十八日の新聞の「コラム」です。よく読んであとの問いに答えなさい。

列車に乗るとき、決まって進行方向に背を向けて座る人がいる。「車外の風景に自然体で向き合い、落ち着いて記憶にとどめることができる」というのだ。逆だと、一瞬見過ごしてしまうことがあり、見たくないものまで目に入ってしまうのがうるさいらしい▼過ア(ぎ)行く光景と、これからたどる道筋。心の持ちようで人の生き方も変わってくる。松尾芭蕉は月日は永遠の旅人のようなものだといったが、歴史の*悠久の営みに比べ、人の一生ははかない。それを実感させる季節となった▼夏目漱石が小説「草枕」を発表したのは百年前。前年には日露戦争が終わり、漱石は「吾輩は猫である」上巻を出版している。日本が戦後の復興から脱した五十年前、経済白書は「もはや戦後ではない」と書いた。以後、高度経済成長に向かってひた走る▼一人一人の生涯に長短はあっても、一区切りごとに記憶をたどり、新たな思いを奮い起こすこともできる。米国の詩人サムエル・ウルマンは詠んでいる。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう。イ年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」(「青春」)。七十八歳の時の詩だ▼国内の六十五歳以上の高齢者は全人口の二〇%を超えている。百歳以上のお年寄りも二万八千人以上。高齢化は加速する一方だが、誰もがたどる道でもある▼*師事する茶道教師は、同じお茶を点てても、人によって味が違うという。「ウ作法の上手下手ではない。もてなすという気持ちのありようだ」と。*先達の言葉には深い意味合いがある。素直に耳を傾けたいものだ。今日は敬老の日。

*悠久…時間や状態が長く続いていること。　*師事…その人を先生として、教えをうけること。

*先達…ある方面のことをよく知っていて、あとから続く人を教え導く人。

(1) この文章には、筆者の思いが散りばめられており、読者は文章を読みながら時の流れと人の生き方について、様々に思いをはせることができます。この文章の内容を象徴的に表現した次のア～ウの引用部分から、自分が共感できるものを一つ選び、その理由を書きなさい。

ア　過ぎ行く光景と、これからたどる道筋。心の持ちようで人の生き方も変わってくる。
イ　年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。
ウ　作法の上手下手ではない。もてなすという気持ちのありようだ。

(2) あなたもこのコラムのようにテーマに沿った自分の思いを、出来事や名言を引用しながら書くことに挑戦してみましょう。ただし、次のア～エに注意して書きなさい。

ア　卒業文集に載せる文章を想定して書くこと。テーマは「中学生活を振り返って」とする。
イ　二段落で構成し、はじめの段落には自分の体験や見聞きした出来事、名言を取り上げ、あとの段落には自分の考えや感じたことを書くこと。名言が思い浮かばないときは次の語群から選んで使ってもかまいません。

名言
○「他人に勝つより、自分に勝て。」　嘉納治五郎
○「登山の目標は山頂と決まっている。しかし、人生の面白さはその山頂にはなく、かえって逆境の、山の中腹にある。」　吉川英治
○「人々は悲しみを分かち合ってくれる友達さえいれば、悲しみを和らげられる。」　シェイクスピア

ウ　百六十字以上二百字以内で書くこと。(題名や名前は書きません。)
エ　読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。